

復興支援フォーラムニュース No. 96

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)
=====

福島県の漁業復興に向けた取組

遠藤和則(元相馬双葉業協同組合本所部長)

1. 漁業の特徴

* 地域の特徴

相馬双葉地区(沿岸漁業が盛ん)

いわき地区(沿岸漁業に加え沖合漁業)

* 沿岸漁業(主に福島県沖の近い海域で操業)

底びき網漁業

船びき網漁業

さし網漁業

* 沖合漁業(数十～数百 km 沖合)

巻き網漁業

さんま棒受網漁業

* 福島県全体の水揚げ状況(平成22年)

約39千トン 約115億円

2. 漁業の被災状況

* 福島県漁業の被災状況

* 施設復旧状況

* 東京電力福島第一原子力発電所の事故による影響

3. 海産魚介類への放射能の影響

－魚介類のモニタリング－（平成23年4月から開始）

* 魚介類のモニタリング －検査体制－

* 検査の流れ

* 検査を行った魚種数・検体数

* 海産魚における放射性セシウムの汚染メカニズム

* 海産魚介類への放射能の影響

<特徴1>・福島第一原発の南側で放射能の影響が大きかった

・水深の深いところ（沖合い）ほど、影響が小さかった

<特徴2>・魚介類の種類によって、放射性セシウムの濃度が低い。

あるいは速やかに低下したものと、そうでないものが見られる。

4. 試験操業の取組

* 試験操業とは？

* 「試験操業開始」の経緯

* 「試験操業」における意思決定の流れ

放射能検査体制

* 「試験操業」の対象種

* 「試験操業」の対象海域

* 「試験操業」の漁法拡大

* これまでの漁獲結果

* 販売（出荷）状況

* 試験操業における課題

* 今後の取組

1) 出荷対象種の拡大

2) 風評対策

3) 本格操業に向けた検査体制の整備

最後に

* 今後、試験操業が拡大し、流通量が増えると、風評被害が顕著になる恐れがあります。

* 様々な機会を捉えて、風評払拭と福島の美味しい魚介類のPRを行って行きます。

* 語り部の皆様にも、福島の水産業の取り組みをご理解いただき、風評払拭に御協力をお願いします。

第93回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

6月10日、第93回ふくしま復興支援フォーラムを福島市「AOZ」で開催しました。

今回は、間野博氏（県立広島大学名誉教授、うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員/都市計画）から、「原発被災地における復興まちづくり計画」について、報告がなされていました。35名が参加し、熱心な質疑応答がありましたが、会場内での文書によるご意見等は、以下の通りです。

~~~~~

★ 個人的に、とても関係のあるお話で、とても興味深く聞かせて頂きました。参考になることが沢山ありました。（T.H）

★ 「国が40年スパンのマスタープランを出すべし」と思いました。（R.S）

★ 改めて、計画づくりの大切さ、住民意思を取り入れる重要さを認識しました。（S.K）

★ とても難しい、と率直に感じた。参加者の方がいろいろの立場の方で、積極的に意見交換させるこの会、すばらしいと思いました。（K.S）

★ 原発作業員の町を考えた方が、現実的でないのでしょうか。

★ 実際に復興の町づくりに、たずさわっている方々から、お話を聞いて、勉強になりました。（T.S）

★ 復興とは、遠くで誰かが決めるもの・・・問われているのは、私たち自身が責任を持って関与していくことかも知れない。（Y.T）

★ 「都市計画理論」の視点から、被災地の実態を分析され、新たな復興計画策定支援を行われている姿に深く感動しました。

★ 改めて復興計画策定の難しさが分かりました。茨城県内に避難している方のグループとの交流、支援を担当しておりますが、彼等に希望を与える計画であって欲しいと思います。県外避難者の孤立は進んでいます。復興計画づくり策定に住民として関わる機会がつながりづくりのきっかけになればと思います。（T.M）

★ 復興計画では、目標の時間管理（30年～50年）を、計画策定主体も、住民も意識する必要があるのではないのでしょうか。今よりも30年後の町のあり方を議論し共有する。現在は一人一人の生活と暮らしをお互いに支援していく。長い時間の視点が必要と思います。（H.K）

★ 住民と行政とのギャップを感じます、復興計画は行政、町側であり、避難住民は4年たち、すでに新しい生活をスタートさせ、根付いているように感じます。（M.T）

★ 被災地の復旧・復興・創出作業の中核で苦勞してこられただけに聴きごたえのある報告であった。質疑応答も、現状を反映した有益なもので、久々に充実した会となった。関係者の専門的な議論に傾斜していて、一般市民としては、基本的なこと等について、議論の参加する余地がなく、残念であった。（S.I）

★ 1)高さ10～20mの護岸工事はやめて、鉄腕アトムで出てきたようなコミュニティ、単位の避難（避難ビル）をつくった方が良い。2)原発の問題は、福島県の問題でなく、日本問題という位置づけで、東北の未来創りの形で、国へ要望が必要（第2の沖縄化防止）。3)提案：元々国は震災後直ちに長期ビジョンで、国の将来の指針を出す必要があるのに出していない＝無責任。市民が国へ要望するしかない。（①エネルギー‘30年、原発ゼロ。②農業一次産業活性化。’50年自給率75%、③ふるさと東北、産業再配置、人口増）（T.S）

~~~~~  
【予告】第95回フォーラム 2015年7月9日（木）18:30～20:30

「震災報道の現場から ～伝える事の大切さ、伝える事の素晴らしさ」

報告者：大和田 新 氏（フリーアナウンサー）

会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1
~~~~~

【予告】第96回フォーラム 2015年7月22日（水）18:30～20:30

「放射能汚染と樹園地および山岳生態系

～山岳愛好家・果樹研究者として係った東京電力福島第一原発事故」

報告者：佐藤 守 氏（高山の原生林を守る会代表）

会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」視聴覚室  
~~~~~

【予告】第97回フォーラム 2015年8月6日（木）18:30～20:30

「相双地域におけるメンタルヘルスケアの取り組み」

報告者：丹羽 真一 氏（福島県病院事業管理者、

福島医大・会津医療センター 精神医学講座 特任教授）

会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」視聴覚室
~~~~~

【予告】第98回フォーラム 2015年8月20日（木）18:30～20:30

「居住支援協議会 震災被災者の住宅再建と高齢者等の地域見守り」

報告者：斎藤 隆夫 氏（福島県居住支援協議会事務局長、

一般社団法人 福島建築安全機構 専務理事）

会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1  
~~~~~